

VII 連携等会議

ファカルティ・スタッフ(FS)ミーティング

1. 構成員

[委員長] 井部俊子

[委員] 全教職員

2. 役割・職務

- 1) 教員および職員参加による学事全般に関する連絡、報告を行う。
- 2) 教員および職員参加による学事全般における討議事項を議論する。
- 3) 連絡報告および討議検討を通して、情報共有と周知を図る。

3. 活動内容

- 1) 月1から2回(4/4、5/17、6/7、6/21、7/5、7/19、9/6、10/18、11/1、11/15、12/6、12/20、1/24、2/21、3/6)
16時～17時に開催し、連絡報告および検討事項の活発な意見交換を行った。

5. 資料・データ

表1 検討事項一覧

	検討事項	概要
①	大学の情報集約・発信機能のあり方について	本学発信の情報元全てを調査実施中。委員会で集約、整理検討することとなった。(回答:広報委員)
②	2011年度新カリキュラム授業科目について	開講する20科目の科目目的、内容についての説明と質疑応答を行った。
③	将来構想委員会の開始について	5つのテーマについてワーキンググループを作り検討し、3月のFSミーティングで中間報告をした。
④	防災対策について	危機管理規定・組織的行動マニュアルの内容検討、安全システムの稼働評価、災害時用備蓄物質の確認と準備、避難訓練の実施評価について討議、意見交換を行った。また防災マニュアル実行体制の4班を編成し、各班で体制整備を行った。
⑤	保健師退勤後の夜間における健康管理室の利用方法について	保健師退勤後は施設し、その後使用要件がある場合は、教職員が警備員の鍵で利用可能と決定した。

2) 定例の連絡報告は、学長、学部長、事務局長、教務部長、学生部長、研究センター長、健康管理室より行われ、委員会等からは伝達事項がある際に適宜報告された。

3) 主な討議事項は、カリキュラム変更に伴う「2011年度新カリキュラム授業科目について」、東日本大震災に伴い整備が必要となった「聖路加看護大学危機管理体制について」および「将来構想委員会について」であった。その他、検討事項と概要を下記5に示す。

4. 課題

1) 教職員一同が介する会議であり、情報共有するという点においては十分に機能している。また、本年度は特に、危機管理体制についての役割分担や業務確認もでき、さらに「将来構想委員会について」の中間報告会も行われ、報告会では活発な意見交換がなされた。今後、教職員がより活発な意見交換を交わせる場として発展すると良いと考えられる。

リエゾンコミッティ

1. 構成員

大学：井部俊子、菱沼典子、山口喜義、中島 薫
病院：日野原重明、福井次矢、石川陵一、細谷亮太、
小松康宏、佐藤エキ子、熊谷三樹雄、上田憲
明、ケビンシーバー、渡辺明良、林 譲也、
小田 薫

2. 役割・職務

St. Luke's Medical Center, Tokyo のための基金、
Teusler Memorial Fund の使途に関する病院との合同協
議

3. 活動内容

Teusler Memorial Fund 事業計画・報告
ー第142回ミーティング[2011年9月6日(火)開催]
議題：アメリカンカウンシル留学報告、財務報告

4. 課題

聖路加国際病院ならびに聖路加看護大学の創設者 Dr.
トイスラーが米国聖公会の信徒や米国市民に募った寄付
金を財源として、アメリカンカウンシル（在米聖路加後
援会）が基金の管理・運用を行っていた。同基金は Teusler
Memorial Fund として2009年に聖路加国際病院に移管
され、以後、病院により管理・運用が行われている。こ
れまで、同基金の運用益から病院・大学図書館への寄付
および職員・学生の留学プログラム経費が賄われていた
が、今後、同規模の支出を支える運用益収入が見込めな
いため、事業の継続には各機関の自己資金からの拠出が
求められている。本学が基金の恩恵を受けていた活動を
継続するためには、新たな財源の確保が必要であり、方
策の検討を要する。

聖路加国際病院ナースマネージャー会

1. 構成員

聖路加看護大学：麻原きよみ（教務部長）、中村綾子、
倉岡有美子
* 聖路加国際病院のナースマネージャー会の構成員は
下記のとおりである。
看護部長、副看護部長、各部門のナースマネジャ
ー及び教育研修部副部長、セーフティマネージャー、

インфекション・コントロール・プラクティシ
ョナー、産科クリニック副所長、聖路加レジデ
ンスケアグループマネージャー等

2. 役割・職務

・ 聖路加国際病院のナースマネージャー会への出席
（原則として第1、第3水曜日 13:00~14:00）

3. 活動内容

- ・ 本学の教育、研究に関連する事項について「ナース
マネージャー会報告」と題し教職員に向けてメールを
発信
 - ナースマネージャー会では、聖路加国際病院並び
に関連施設における看護提供上の問題の検討な
らびに、変更事項の通達がなされる。
 - 2011年度は聖路加国際病院のJCI受審に関連す
る事項についての告知を多く扱った。
- ・ ナースマネージャー会において、大学からの連絡事
項の伝達
- ・ 2011年度のナースマネージャー会は23回開催され、
開催日程は下記のとおりであった。
4月6日、20日、5月11日、25日、6月1日、15日、
7月6日、20日、8月3日、24日、9月7日、21日、
10月5日、19日、11月2日、16日、12月1日、15日、
1月4日、2月1日、15日、3月7日、21日。なお、
2月1日は、学事行事のため欠席した。

ウィリアムズ主教記念基金運営委員会

1. 構成員：聖路加看護大学よりの委員 田代順子、松
谷美和子
[運営委員長] 吉岡知哉（立教大学総長）、
[委員]：Donovan（立教大学国際センター）、
聖公会関係学校各代表者

2. 役割・職務

- 1) 運営委員メンバーとして、基金の会計、記念講座
計画・実施等の審議
- 2) ウィリアムズ主教記念基金による客員研究員（留
学生）の選定
- 3) 客員研究員（留学生）受け入れの場合、本学内の
調整と準備
- 4) 客員研究員（留学生）の経過報に関して運営委員

会へ報告、等に関わる。

3. 活動内容（上記2に沿って記述）

- 1) 年2回の会議の出席において、5月国際学会参加、12月学会理事会出席のため欠席したが、12月は客員研究選考が議題であるため代理として松谷教授が出席した。
- 2) 12月の委員会において、8名の候補の選考を行った。8名の内、4名が看護・助産を選考する者であったが、内3名の申請書類で学歴および成績証明の不備があり、リベリアからの研究生が選考に残った。リベリアからの研究員は過去に受け入れているため、看護を研究研修計画している候補者（看護教育）は第2候補となった。今後、選考順位に沿って本人に連絡されることになった。
- 3) 来年度の受け入れはない。
- 4) 2011年3月に2009年3月から本学大学院修士課程で堀内教授のもと助産学を履修した Ms. MADENI Frida E が修了し、修士論文が“Reproductive Health”に掲載されたことを運営委員会に報告した。

4. 課題

- 1) ウィリアムズ主教記念の客員研究員の応募が少なくなっている。
- 2) 基金も年々減少しているが、基金を増やす計画はない。
- 3) 聖路加看護大学からの委員は1名であるが、他の社会的活動と重なることもあり、複数の配置が必要である。

5. 2012年度の予定

- 1) 5月8日（火）18時～20時、太刀川記念館2階会議室
前年度会計報告、次期客員研究員募集、選考日程の決定、等。
- 2) 12月7日（金）18時～20時、太刀川記念館2階会議室
客員研究員候補者決定、翌年度予算について、その他。